

**Patches for Oracle Linux - ユーザーズ・ガイド**



## Special notice

Before using this information and the product it supports, read the information in [Notices \(on page xxiii\)](#).

## Edition notice

This edition applies to BigFix version 10 and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

# 目次

Special notice.....	ii
Edition notice.....	iii
<b>第 1 章. 概要.....</b>	<b>5</b>
サポートされるアーキテクチャ、エラッタ、リポジトリ.....	5
サイト適用条件マトリックス.....	7
Fixlet fields.....	8
<b>第 2 章. セットアップ.....</b>	<b>10</b>
Site subscription.....	10
BigFix Patch for Oracle Linux サイトへのサブスクリーブ.....	10
ローカル・リポジトリの設定.....	10
<b>第 3 章. Patch for Oracle Linux の使用.....</b>	<b>11</b>
Fixlet を使用したパッチ.....	11
YUM ユーティリティーを使用したパッチ適用.....	11
置き換え.....	11
<b>第 4 章. YUM トランザクションの管理.....</b>	<b>12</b>
YUM トランザクションのロールバック.....	14
YUM トランザクションの取り消し .....	14
YUM トランザクションのやり直し.....	15
YUM のパッケージ更新の確認.....	16
<b>第 5 章. カスタム・リポジトリを管理する.....</b>	<b>17</b>
リポジトリの登録.....	17
エンドポイントからのリポジトリの登録解除.....	18
リポジトリの追加.....	18
リポジトリのインポート.....	19
<b>第 6 章. よくある質問.....</b>	<b>20</b>
<b>付録 A. Support.....</b>	<b>22</b>
Notices.....	xxiii

# 第1章. 概要

BigFix® Patches for Oracle Linux を使用すると、Linux™ 最新の更新およびサービス・パックでクライアントを最新の状態に維持できます。

パッチ管理は、BigFix の Oracle Linux 用パッチ・サイトを介して提供されます。BigFix は、新規のパッチまたは更新が入手できるようになるたびに Fixlet をリリースします。Fixlet により、企業内でそのパッチまたは更新を必要とするすべてのコンピューターが識別され、修正が適用されます。BigFix コンソールのオペレーターは、キーを数回押すだけで、関係するすべてのコンピューターにパッチを適用し、ネットワーク全体の適用の進行状況を視覚化することができます。

BigFix エージェントは、オペレーティング・システムのバージョン、ファイルのバージョン、システムの言語、および他の関連する要因をチェックして、パッチが必要かどうかおよびいつ必要となるかを判別します。

Fixlet により、大量の更新およびパッチを比較的簡単に管理することができ、どのようなスケジュールの下でも、自動化され、対象が絞り込まれた適用作業を実行できます。ネットワーク帯域幅を最適化するために大容量のダウンロードを段階的に実行でき、インベントリーまたは監査の制御のために、適用プロセス全体をモニター、グラフ化、および記録できます。Fixlet には多くの場合、コンソール・オペレーターが問題を回避できるようにする追加の注意事項が含まれています。Oracle Linux 用パッチ・サイトにサブスクライブしたら、次の操作を実行できます。

- Fixlet を使用したパッチ
- タスクを介して使用可能な YUM パッケージを識別する。
- 「YUM トランザクション履歴」ダッシュボードから、デプロイメントのトランザクションをロールバックしたり、元に戻したり、やり直したりする。
- 「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理」ダッシュボードを使用して、カスタム・リポジトリの登録、追加、登録解除、またはインポートを行う。



注: ローカル・リポジトリは、個別に設定する必要があります。

## 新機能

Patches for Oracle Linux は、Oracle Linux 6 をサポートするために拡張されています。Oracle Linux 6 のユーザーは、カスタム・リポジトリや「YUM 履歴」ダッシュボードの機能を利用できるようになりました。

## サポートされるアーキテクチャ、エラッタ、リポジトリ

Patches for Oracle Linu のさまざまな機能は、Oracle Linux サイトごとに異なる方法で適用されます。

BigFix Patches for Oracle Linux は、セキュリティ、バグ修正、および Oracle Linux の拡張エラッタをサポートしています。エラッタは、Oracle が Oracle Linux への重要な変更をリリースする個々のパッケージ更新です。エラッタ・パッケージには、セキュリティ、バグ修正、および機能拡張アドバイザリーが含まれています。Oracle Linux エラッタの詳細については、[https://docs.oracle.com/cd/E37670\\_01/E37355/html/ch03s03.html](https://docs.oracle.com/cd/E37670_01/E37355/html/ch03s03.html) を参照してください。BigFix Patches for Oracle Linux は、以下の Oracle Linux リポジトリ用にリリースされたエラッタをサポートしています。

表 1. 各 Patches for Oracle Linux サイトに適用可能な機能

Patches for Oracle Linux サイト	サポートされるアーキテクチャー	サポートされるリポジトリ
Patches for Oracle Linux 6	X86-64, i386	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最新</li> <li>• UEK リリース 4</li> <li>• UEK リリース 3</li> <li>• UEK リリース 2</li> <li>• アドオン</li> <li>• OFED (UEK リリース 4)</li> <li>• OFED 2.0</li> <li>• OpenStack 1.0</li> <li>• Ceph 1.0</li> <li>• Spacewalk 2.4 サーバー</li> <li>• Spacewalk 2.2 サーバー</li> <li>• Spacewalk 2.0 サーバー</li> <li>• Spacewalk 2.4 クライアント</li> <li>• Spacewalk 2.2 クライアント</li> <li>• Spacewalk 2.0 クライアント</li> <li>• Software Collection 1.2</li> <li>• MySQL 5.7</li> <li>• MySQL 5.6</li> <li>• MySQL 5.5</li> <li>• GDM Multiseat</li> </ul>
Patches for Oracle Linux 7	X86-64	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最新</li> <li>• UEK リリース 6</li> <li>• UEK リリース 5</li> <li>• UEK リリース 4</li> <li>• UEK リリース 3</li> <li>• オプションの最新</li> <li>• OFED (UEK リリース 4)</li> <li>• OFED 2.0</li> <li>• アドオン</li> <li>• OpenStack 2.0</li> <li>• Ceph 1.0</li> <li>• Spacewalk 2.2 クライアント</li> <li>• Software Collection 1.2</li> <li>• MySQL 5.7</li> </ul>

表 1. 各 Patches for Oracle Linux サイトに適用可能な機能 (続く)

Patches for Oracle Linux サイト	サポートされるアーキテクチャー	サポートされるリポジトリ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>MySQL 5.6</li> <li>MySQL 5.5</li> </ul>
Patches for Oracle Linux 8	x86-64	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新</li> <li>AppStream</li> <li>アドオン</li> <li>Codeready-builder</li> <li>BaseOS GA</li> <li>8.1 BaseOS</li> <li>8.2 BaseOS</li> <li>Spacewalk クライアント 2.10</li> <li>UEK リリース 6</li> </ul>

使用可能な Oracle Linux パッケージのリストを参照するには、以下の参照情報を参照してください。

- Oracle Linux 6 パッケージ・リポジトリ:<http://yum.oracle.com/oracle-linux-6.html> を参照してください。
- Oracle Linux 7 パッケージ・リポジトリについては、<http://public-yum.oracle.com/oracle-linux-7.html> を参照してください。
- Oracle Linux 8 パッケージ・リポジトリについては、<https://public-yum.oracle.com/oracle-linux-8.html> を参照してください。



**注:** BigFix Patch for Oracle Linux を使用するには、BigFix バージョン 9.5 以降を使用する必要があります。

BigFix Patch は BigFix RHEL エージェント・バージョン 9.5.2 を使用します。

BigFix は、Oracle Linux が提供している Red Hat Compatible Kernel と、Unbreakable Enterprise Kernel (UEK) の両方をサポートしています。



**注:** 一部のリポジトリは、Oracle Enterprise Linux の上位互換性を損なう可能性があるため、デフォルトでは有効になっていません。ユーザーが、欠落しているパッケージに関するエラーに遭遇することがあります。詳細については、[よくある質問 \(ページ 20\)](#)を参照してください。

## サイト適用条件マトリックス

Patches for Oracle Linu のさまざまな機能は、Oracle Linux サイトごとに異なる方法で適用されます。

以下のマトリックスは、各 Oracle Linux サイトに適用される Patches for Oracle Linux の機能を示しています。

**表 2. 各 Patches for Oracle Linux サイトに適用可能な機能**

BigFix サイト	カスタム・リポジトリ 管理ダッシュボード	「YUM トランザクション履歴」ダッシュボード
Patches for Oracle Linux 6	適用可能	適用可能
Patches for Oracle Linux 7	適用可能	適用可能
Patches for Oracle Linux 8	適用可能	適用可能

## Fixlet fields

Fixlets contain fields of metadata that provide specific details. Some Fixlet fields are common across all domains, that is, categories of BigFix sites. Other fields are common to only one domain or product, such as Patch Management.

The following table lists the Fixlet fields and their descriptions.

**Table 3. Fixlet fields and descriptions**

Fixlet fields	Description	BigFix domain
ID	A numerical ID assigned to the Fixlet by the author.	All
Name	The name assigned to the Fixlet by the author.	All
Applicable Computer Count	The number of BigFix clients in the network currently affected by the Fixlet.	All
Category	The type of Fixlet, such as a Security Patch or Update.	All
Download Size	The size of the remedial file or patch that the action downloads.	All
Source	The name of the source vendor that provides the Fixlet information.	All
Source ID	A numerical ID assigned to the Fixlet to relate it back to its source.	All
Source Release Date	The date when an upstream vendor releases the patch.	All
Source Severity	A measure of how critical a Fixlet is, assigned by the Fixlet author. Typical values are Critical, Important, Moderate, or Low.	All
Site	The name of the site that is generating the relevant Fixlet.	All

**Table 3. Fixlet fields and descriptions**

(continued)

<b>Fixlet fields</b>	<b>Description</b>	<b>BigFix domain</b>
Unlocked Computer Count	The number of unlocked computers that are affected by the Fixlet.	All
Open Action Count	The number of distinct actions that are open for the given Fixlet.	All
X-Fixlet-product-family	The product family that the patch belongs to.	Windows Patching (Relates to BigFix Patch Management)
X-Fixlet-product	The product that the patch belongs to under a certain product family.	Windows Patching (Relates to BigFix Patch Management)
X-Fixlet-component	A component that the patch targets under a certain product family.	Windows Patching (Relates to BigFix Patch Management)
Modification Time	The time when a given Fixlet was last modified.	All
X-Fixlet-first-propagation	The Fixlet release date.	All

## 第2章. セットアップ

パッチ管理のための環境を設定します。

### Site subscription

Sites are collections of Fixlet messages that are created internally by you, by HCL, or by vendors.

Subscribe to a site to access the Fixlet messages to patch systems in your deployment.

You can add a site subscription by acquiring a Masthead file from a vendor or from HCL or by using the Licensing Dashboard. For more information about subscribing to Fixlet sites, see the *BigFix Installation Guide*.

For more information about sites, see the *BigFix Console Operator's Guide*.

### BigFix Patch for Oracle Linux サイトへのサブスクライブ

「ライセンスの概要」ダッシュボードを使用して「Patches for Oracle Linux」サイトにサブスクライブします。

1. 「BigFix 管理 (BigFix Management)」ドメインから、「ライセンスの概要 (License Overview)」ダッシュボードをクリックします。
2. 「適用可能な Patches for Oracle Linux」サイトまでスクロールダウンし、「有効化」をクリックします。
3. 「サイトを管理」ノードを開き、適用可能な Patches for Oracle サイトを選択します。たとえば、Patches for Oracle Linux 7 などです。
4. サイト・ダイアログから、「コンピューターのサブスクリプション」タブをクリックして、そのサイトを適切なコンピューターに割り当てます。
5. 「オペレーター権限」タブで、サイトに関連付けるオペレーターとオペレーターの権限レベルを選択します。
6. 「変更を保存」をクリックします。

これで「Patches for Oracle Linux」サイトのサブスクライブが完了しました。

### ローカル・リポジトリの設定

「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理」ダッシュボードを使用してカスタム・リポジトリを管理します。

BigFix Patch for Oracle Linux は、カスタム・リポジトリの使用をサポートしています。「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理」ダッシュボードを使用して、カスタム・リポジトリを管理できます。ただし、このダッシュボードはローカル・リポジトリの作成および保守をサポートしません。ローカル・リポジトリを別個に作成する必要があります。

ローカル・リポジトリの作成の詳細については、<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/yum-repo-setup-1659167.html> を参照してください。

# 第3章. Patch for Oracle Linux の使用

## Fixlet を使用したパッチ

BigFix コンソールからパッチを適用できます。コンソール・ナビゲーション・ツリーの「パッチ管理」ドメインで、「OS ベンダー」をクリックして、「Oracle Linux」をクリックします。適用する Fixlet をダブルクリックします。Fixlet ウィンドウの上部にあるタブをクリックして、追加の詳細情報を確認し、「アクション」ボックス内の該当するリンクをクリックして、適用を開始します。「OK」をクリックします。

## YUM ユーティリティーを使用したパッチ適用

Yellow dog Updater Modified (YUM) は、Red Hat Package Manager (RPM) パッケージを更新、インストール、および削除するパッケージ管理ツールです。YUM ではコマンド・ライン・インターフェースを使用して、パッケージのインストール、アンインストール、および更新の処理を単純化します。これらの処理では YUM リポジトリへのアクセス権限が必要です。

### YUM ユーティリティーの設定

「Oracle Linux 用パッチ」サイトは、Fixlet 設定 `in /etc/yum.conf` で YUM ユーティリティー設定を使用します。以下の YUM 構成設定は Fixlet 設定では使用されません。

- `cachedir`
- `keepcache`
- `plugins`
- `reposdir`
- `pluginpath`
- `pluginconfpath`
- `metadata_expire`
- `installonlypkgs`

## 置き換え

置き換えについて詳しくは、「Windows 以外での置き換え ( (ページ) )」を参照してください。

# 第4章. YUM トランザクションの管理

「YUM トランザクション履歴」ダッシュボードを使用して、YUM トランザクション履歴を表示しトランザクションを管理します。

このダッシュボードには YUM トランザクション履歴が表示され、適用環境内でトランザクションをロールバックしたり、元に戻したり、やり直したりするのに使用できます。

## ロールバック

ロールバック機能は、指定したトランザクションの時点までのトランザクションをすべて取り消します。

## 元に戻す

元に戻す機能は、選択したトランザクションのみを元に戻します。

## 繰り返し

やり直し機能は最近のトランザクション・アクションを繰り返します。



**注:** アクティブ・カーネルをカーネル更新に対してロールバックすることはできません。

## 要件

「YUM トランザクション履歴」ダッシュボードを使用するには、以下の要件が満たされていることを確認してください。

- BigFix バージョン 9.5 以降を使用してください。
- Oracle Linux 6 以降を使用してください。
- YUM バージョン 3.2.28 以降を使用している。



**注:** ロールバック機能は YUM バージョン 3.2.29 以降でサポートされています。



**注:** 選択したエンドポイントの YUM バージョンが 3.2.29.22 より前の場合、ダッシュボードでその YUM バージョンの隣に警告サインが表示され、ロールバック・アクションがサポートされないバージョンであることを示します。サポートされないバージョンの場合、すべてのトランザクションに対して「ロールバック」ボタンが無効になります。

- 「パッチ・サポート」サイトをサブスクライブする。
- YUM トランザクション履歴分析をアクティブ化する。

## YUM トランザクション・アクション

「アクション」列は、ダッシュボードでの YUM トランザクション・アクションを示します。以下の表に、トランザクションごとのアクションの詳細を示します。

**表 4. トランザクション・アクションの説明**

アクション	省略形	説明\n
ダウングレード	D	少なくとも 1 つのパッケージが以前のバージョンにダウングレードされました。
消去	E	少なくとも 1 つのパッケージが削除されました。
以下をインストールします。	I	少なくとも 1 つの新しいパッケージがインストールされました。
廃止	O	少なくとも 1 つのパッケージが廃止としてマークを付けられました。
再インストール	R	少なくとも 1 つのパッケージが再インストールされました。
更新	U	少なくとも 1 つのパッケージが新しいバージョンに更新されました。

YUM 履歴について詳しくは、[Red Hat Product Documentation](#) サイトを参照してください。

## YUM トランザクション分析

ダッシュボードでは、以下の分析が使用されます。

### YUM トランザクション履歴分析

BigFix Patches for Oracle Linux は、「YUM トランザクション履歴」ダッシュボードで実行されるアクションの結果を記録するログを生成します。YUM 履歴トランザクション分析は、アクション・ログ `yum_history.log` の内容を取得します。ログは、`/var/opt/BESClient/EDRDeployData/yum_history.log` にあります。

### YUM ログ分析

YUM ログは、YUM がデフォルトで `/var/log/yum.log` に生成する正式なログです。デフォルトの場所を変更するには、`/etc/yum.conf` のログ・ファイルの設定を変更します。YUM ログ分析は、トラブルシューティングの目的に非常に有効です。

分析には 2 つのプロパティーがあります。

### YUM ログ・プロパティー

実行された操作をすべてログに記録し、変更されたトランザクションを識別します。このログは、YUM ログ・ファイルの最後の 40 行を取得します。

### YUM 履歴ダッシュボードのアクション・ログ

このログは、アクションからのやり直しの操作、元に戻す操作、およびロールバックの操作のアクション・ログをリストします。アクションは、`/var/opt/BESClient/EDRDeployData/yum_history.log` にログを書き込みます。YUM 履歴ダッシュボードのアクションは、5 件の最新アクションを記録します。

## トラブルシューティング

「YUM トランザクション履歴」ダッシュボードのトラブルシューティングを実行するには、`var/opt/BESClient/EDRDeployData` 内の `yum_history.log` ファイルを確認します。

## YUM トランザクションのロールバック

YUM トランザクションをロールバックする方法について説明します。

以下の要件を満たしていることを確認してください。

- BigFix バージョン 9.5 以降を使用してください。
- Oracle Linux 6 以降を使用してください。
- YUM バージョン 3.2.28 以降を使用している。ロールバック機能は YUM バージョン 3.2.39 以降でサポートされています。



**注:** 選択したエンドポイントの YUM バージョンが 3.2.29.22 より前の場合、ダッシュボードでその YUM バージョンの隣に警告サインが表示され、ロールバック・アクションがサポートされないバージョンであることを示します。サポートされないバージョンの場合、すべてのトランザクションに対して「ロールバック」ボタンが無効になります。

- 「パッチ・サポート」サイトをサブスクライブする。
- YUM トランザクション履歴分析をアクティビ化する。

1. BigFix コンソールを使用して、「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「YUM トランザクション履歴」に移動します。
2. YUM 履歴を表示するエンドポイントを選択します。



**注:** 選択したエンドポイントの YUM バージョンが 3.2.29.22 より前の場合、そのバージョンはサポートされていないことがツールチップで示されます。

3. ロールバックするトランザクションを選択します。
4. 「ロールバック」をクリックします。
5. 「トランザクションまでロールバック」ウィンドウが開きます。オプション: フィールドにフラグを追加することができます。「適用」をクリックします。
6. 「アクションの実行」ウィンドウで、コンピューターを選択し、「OK」をクリックしてアクションを実行します。

## YUM トランザクションの取り消し

この機能を使用して、単一の特定のトランザクションを元に戻します。

以下の要件を満たしていることを確認してください。

- BigFix バージョン 9.5 以降を使用してください。
- Oracle Linux 6 以降を使用してください。
- YUM バージョン 3.2.28 以降を使用している。



**注:** ロールバック機能は YUM バージョン 3.2.39 以降でサポートされています。



**注:** 選択したエンドポイントの YUM バージョンが 3.2.29.22 より前の場合、ダッシュボードでその YUM バージョンの隣に警告サインが表示され、ロールバック・アクションがサポートされないバージョンであることを示します。サポートされていないバージョンの場合、すべてのトランザクションに対して「元に戻す」ボタンが無効になります。

- 「パッチ・サポート」サイトをサブスクライブする。
- YUM トランザクション履歴分析をアクティビ化する。

1. BigFix コンソールを使用して、「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「YUM トランザクション履歴」に移動します。
2. YUM 履歴を表示するエンドポイントを選択します。
3. 元に戻すロールバックがあるトランザクションを選択します。
4. 「元に戻す」をクリックします。
5. 「トランザクションの取り消し」ウィンドウで「適用」をクリックします。
6. 「アクションの実行」ウィンドウで、コンピューターを選択し、「OK」をクリックしてアクションを実行します。

## YUM トランザクションのやり直し

この機能を使用しては最近のトランザクション・アクションを繰り返します。

以下の要件を満たしていることを確認してください。

- BigFix バージョン 9.5 以降を使用してください。
- Oracle Linux 6 以降を使用してください。
- YUM バージョン 3.2.28 以降を使用している。



**注:** 選択したエンドポイントの YUM バージョンが 3.2.29.22 より前の場合、ダッシュボードでその YUM バージョンの隣に警告サインが表示され、ロールバック・アクションがサポートされないバージョンであることを示します。サポートされていないバージョンの場合、すべてのトランザクションに対して「やり直し」ボタンが無効になります。

- 「パッチ・サポート」サイトをサブスクライブする。
- YUM トランザクション履歴分析をアクティビ化する。



**注:** アクティブ・カーネルをカーネル更新に対してロールバックすることはできません。

1. BigFix コンソールを使用して、「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「YUM トランザクション履歴」に移動します。
2. YUM 履歴を表示するエンドポイントを選択します。
3. やり直すトランザクションを選択します。
4. 「やり直し」をクリックします。
5. 「トランザクションのやり直し (Redo Transaction)」ウィンドウで「適用」をクリックします。
6. 「アクションの実行」ウィンドウで、コンピューターを選択し、「OK」をクリックしてアクションを実行します。

## YUM のパッケージ更新の確認

タスクを使用して、適用環境にインストールする必要がある YUM のパッケージ更新を確認できます。

Oracle Linux エンドポイントに適用可能な YUM のパッケージ更新の詳細を示すリストを参照できます。

「ID 39: YUM: 使用可能なパッケージ更新の確認」タスクを実行すると、YUM ログ分析の新規列に結果が表示されます。このタスクでは、インストールされているパッケージに対してどの更新が使用可能であるかを、`yum check-update` を使用して判別します。このタスクは、適用環境内のリポジトリを使用します。このタスクを実行する際は、リポジトリ内で YUM パッケージが使用可能であることを確認してください。

### 「YUM: 使用可能なパッケージ更新の確認」タスクの使用

- 「パッチ・サポート」サイトをサブスクライブする。
- YUM ログ分析が有効になったことを確認します。
- エンドポイントがリポジトリを使用していること、および YUM パッケージがこのリポジトリ内で使用可能であることを確認します。

1. コンソールから、「パッチ・サポート (Patching Support)」サイトに移動し、次のタスクを選択します。ID 39: YUM: 使用可能なパッケージ更新の確認。
2. 「アクションの実行」をクリックして、タスクを実行します。
3. 「OK」をクリックします。
4. アクションが完了したら、「パッチ・サポート (Patching Support)」>「分析」>「分析: YUM ログ」に移動し、「結果」タブを選択します。

「YUM 更新チェック出力」列が追加され、インストールが必要な更新がエンドポイントに存在するかどうかを確認できます。

# 第5章. カスタム・リポジトリを管理する

「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理」ダッシュボードを使用して、リポジトリを登録および管理します。

カスタム・リポジトリを使用すると、ご使用の適用環境のエンドポイントに適用できる内容を柔軟に制御できます。たとえば、カスタム・リポジトリに自分がホストするカスタム・ソフトウェアを適用できます。「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理」ダッシュボードを使用して、標準リポジトリとサテライト・リポジトリを登録および管理します。BigFix Patch for Oracle Linux のユーザーは、ダッシュボードを使用して以下のアクションを実行できます。

- カスタム・リポジトリの登録、登録解除、追加、削除、インポート。
- BigFix を使用してカスタム・ソフトウェアを配信します。カスタム・リポジトリのサポートでは、既存のローカル・リポジトリを使用して帯域幅を節約し、パフォーマンスを改善します。

現在の BigFix インフラストラクチャー (Patch for Oracle Linux サイトの Fixlet が Oracle Linux サーバーからパッチを直接ダウンロードすることができる) に従う代わりに、Fixlet では、YUM によるローカル・リポジトリからのダウンロードが可能になっています。

以下の要件を満たしていることを確認してください。

- BigFix バージョン 9.5 以降。
- 最小 YUM バージョン: YUM 3.2.19-18
- 「パッチ・サポート」サイトをサブスクライブする。
- 「パッチ・サポート」サイトから「リポジトリ構成 - Oracle Linux 分析」をアクティブ化して、ダッシュボードにアクセスする。



**注:** このダッシュボードは、ローカル・リポジトリの作成および保守をサポートしません。ローカル・リポジトリを別個に作成する必要があります。

「パッチ・サポート」サイトから YUM タスクを使用することにより、インストール・パッケージを使用して、カスタム・リポジトリ内にあるカスタム・ソフトウェアをインストールします。

## リポジトリの登録

ダッシュボードを使用して、既存のリポジトリを登録してエンドポイントに接続することができます。

「リポジトリ構成 - Oracle Linux」分析をアクティブ化します。

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理 (Oracle Linux Custom Repository Management)」に移動します。
2. 「エンドポイント」タブをクリックして、エンドポイントを選択します。選択したエンドポイントのリポジトリが、ウィンドウの下部にリストされます。リポジトリに未指定として名前が付けられる場合は、「リポジトリ」リストにリストされないことを意味します。

3. 「新規リポジトリの登録 (Register a new repository)」をクリックします。
4. 「新規リポジトリの登録 (Register a New Repository)」ウィンドウで、リポジトリを選択して「次へ」をクリックします。後続のウィンドウに、登録するリポジトリの名前と URL が表示されます。
5. このステップはオプションです。「追加フィールド (Additional Fields)」に詳細な構成情報を追加することもできます。この情報は、YUM 構成ファイルに保存されます。



**注:** ベンダー・サイトの単なるミラーではないカスタム・リポジトリを持つユーザーは、「追加フィールド (Additional Fields)」に `gpgcheck=0` を追加する必要があります。gpg シグニチャー・ファイルが除外されると、rpm ファイルに対して認証チェックが行われず、インストールが失敗する可能性があります。

6. 「保存」をクリックします。
7. 「アクションの実行」ウィンドウで、コンピューターを選択し、「OK」をクリックしてアクションを実行します。

## エンドポイントからのリポジトリの登録解除

ダッシュボードを使用して、エンドポイントからリポジトリを登録解除できます。

リポジトリを登録解除すると、ダッシュボードは、選択されたコンピューターからシステム ID ファイルを削除します。サテライト・サーバーにログインし、そのコンピューターを手動で削除する必要があります。

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理 (Oracle Linux Custom Repository Management)」に移動します。
2. 「エンドポイント」タブをクリックして、「新規レジストリーの登録解除 (Unregister a new repository)」をクリックします。
3. 「新規リポジトリの登録解除 (Unregister a New Repository)」ウィンドウで、リポジトリを選択して「保存」をクリックします。
4. 「アクションの実行」ウィンドウで、コンピューターを選択して「OK」をクリックします。



**注:** リポジトリを登録解除すると、YUM 構成ファイルは削除されず、無効化のみが行われます。

## リポジトリの追加

「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理」ダッシュボードを使用して、リポジトリを追加することができます。

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理 (Oracle Linux Custom Repository Management)」に移動します。
2. 「リポジトリ」タブで、追加するリポジトリを選択して「追加」をクリックします。

3. 「新規リポジトリの追加」 ウィンドウで、「名前」 フィールドと「リポジトリ URL」 フィールドに値を入力します。注意: サテライト URL を入力すると、ブートストラップ URL が自動的に入力されます。ブートストラップは、サテライト・サーバーで作成されます。
4. 「保存」 をクリックします。

リポジトリがダッシュボードに追加されました。追加したリポジトリがエンドポイントで使用されるようにするには、「エンドポイント」 タブに移動してそのリポジトリを登録します。

## リポジトリのインポート

ユーザーは、この機能を使用して既存のリポジトリをインポートすることができます。

「リポジトリ構成 - Oracle Linux」 分析をアクティブ化して、ダッシュボードにエンドポイントおよびリポジトリの情報を取り込みます。

既存のリポジトリをインポートする場合、以下の項目が以下の順序で .repo ファイルに入力されていることを確認してください。

```
name=
baseurl=
enabled=
gpgcheck=
```

1. 「すべてのコンテンツ」 ドメインから、「サイト」 > 「外部サイト」 > 「パッチ・サポート」 > 「ダッシュボード」 > 「Oracle Linux カスタム・リポジトリ管理 (Oracle Linux Custom Repository Management)」 に移動します。
2. 「リポジトリ」 タブをクリックし、「インポート」 をクリックします。
3. 「既存のリポジトリのインポート (Import Existing Repositories)」 ウィンドウで、リポジトリを選択して名前を指定します。
4. 「保存」 をクリックします。

リポジトリは、ダッシュボードにインポートされ、リポジトリのリストに追加されるようになります。

# 第6章. よくある質問

このセクションの質問と回答は、Patch for Oracle Enterprise Linux をよりよく理解するために役立ちます。

## Oracle Linux パッチ更新のデプロイメントに失敗した原因は何ですか？

一部のリポジトリは、Oracle Enterprise Linux の上位互換性を損なう可能性があるため、デフォルトでは有効になっていません。これにより、パッチのデプロイメントに失敗する場合があり、ユーザーは `EDRDeployData.log` ファイルに示されている以下のようなエラーを受け取る可能性があります。

```
No package kernel-devel-3.-514.26.1.0.1.el7.x86_64 available.  
No package kernel-headers-3.-514.26.1.0.1.el7.x86_64 available.  
No package kernel-tools-3.-514.26.1.0.1.el7.x86_64 available.  
No package kernel-tools-libs-3.-514.26.1.0.1.el7.x86_64 available.  
No package perf-3.-514.26.1.0.1.el7.x86_64 available.  
No package python-perf-3.-514.26.1.0.1.el7.x86_64 available.  
Error: Nothing to do
```

ユーザーは上位互換が必要かどうかを判断する必要があります。

以下のステップに従って、欠落しているリポジトリを有効にします。



**注:** 以下のステップは、すべての Oracle Linux バージョンに適用されます。

1. `/etc/yum.repos.d/public-yum-ol7.repo` に移動して、OL7 リポジトリ・ファイルを検索します。
2. リポジトリのエントリー（この場合は「ol7\_MODRHCK」）が存在する場合は、そのエントリーが有効になっていることを確認します。
3. リポジトリ・エントリーが存在しない場合は、以下のエントリーを追加します。

```
[ol7_MODRHCK]  
name=Latest RHCK with fixes from Oracle for Oracle Linux $releasever ($basearch)  
baseurl=http://yum.oracle.com/repo/OracleLinux/OL7/MODRHCK/$basearch/  
gpgkey=file:///etc/pki/rpm-gpg/RPM-GPG-KEY-oracle  
gpgcheck=1  
priority=20  
enabled=1
```

4. 変更を保存します。

## Oracle Linux にパッチを適用するために、エンドポイントにインターネット接続が必要ですか？

はい、エンドポイントまたは BESClient は、インターネットからアクセスする構成済みの Oracle の公開リポジトリーから必要なパッケージを直接ダウンロードします。BES サーバーは必要なパッチをダウンロードしません。

BESClient がインターネットにアクセスできない場合は、カスタム・リポジトリーをセットアップします。カスタム・リポジトリーのセットアップまたは作成を行うには、Oracle のサポートにお問い合わせください。

「Oracle Linux カスタム・リポジトリー管理」ダッシュボードを使用して、Oracle Linux クライアントのカスタム・リポジトリーを登録し、管理します。

**EDR ログに次のメッセージが表示され、Fixlet のインストールに失敗した場合の対処方法「警告インストールするものはありません。最新のカーネルを使用しているかどうかを確認してください」**

このメッセージは、カーネル・パッケージをデプロイする Fixlet の場合にのみ表示されます。エンドポイントにターゲット・カーネル・パッケージがインストールされていない場合、またはエンドポイントのアクティブ・カーネルがターゲット・カーネル・パッケージより低いバージョンである場合、カーネル Fixlet が関連状態になります。エンドポイントに最新のカーネルがインストールされているもののアクティブに使用していない場合も、カーネルの脆弱性の対象と見なされます。

問題を修復するにはエンドポイントを再起動し、使用可能な最新のカーネルを使用していることを確認します。

## Appendix A. Support

For more information about this product, see the following resources:

- [BigFix Support Portal](#)
- [BigFix Developer](#)
- [BigFix Playlist on YouTube](#)
- [BigFix Tech Advisors channel on YouTube](#)
- [BigFix Forum](#)

## Notices

This information was developed for products and services offered in the US.

HCL may not offer the products, services, or features discussed in this document in other countries. Consult your local HCL representative for information on the products and services currently available in your area. Any reference to an HCL product, program, or service is not intended to state or imply that only that HCL product, program, or service may be used. Any functionally equivalent product, program, or service that does not infringe any HCL intellectual property right may be used instead. However, it is the user's responsibility to evaluate and verify the operation of any non-HCL product, program, or service.

HCL may have patents or pending patent applications covering subject matter described in this document. The furnishing of this document does not grant you any license to these patents. You can send license inquiries, in writing, to:

*HCL  
330 Potrero Ave.  
Sunnyvale, CA 94085  
USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the HCL Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

*HCL  
330 Potrero Ave.  
Sunnyvale, CA 94085  
USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

HCL TECHNOLOGIES LTD. PROVIDES THIS PUBLICATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some jurisdictions do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. HCL may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-HCL websites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those websites. The materials at those websites are not part of the materials for this HCL product and use of those websites is at your own risk.

HCL may use or distribute any of the information you provide in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Licensees of this program who wish to have information about it for the purpose of enabling: (i) the exchange of information between independently created programs and other programs (including this one) and (ii) the mutual use of the information which has been exchanged, should contact:

*HCL  
330 Potrero Ave.  
Sunnyvale, CA 94085  
USA  
Attention: Office of the General Counsel*

Such information may be available, subject to appropriate terms and conditions, including in some cases, payment of a fee.

The licensed program described in this document and all licensed material available for it are provided by HCL under terms of the HCL Customer Agreement, HCL International Program License Agreement or any equivalent agreement between us.

The performance data discussed herein is presented as derived under specific operating conditions. Actual results may vary.

Information concerning non-HCL products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. HCL has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-HCL products. Questions on the capabilities of non-HCL products should be addressed to the suppliers of those products.

Statements regarding HCL's future direction or intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to actual people or business enterprises is entirely coincidental.

#### COPYRIGHT LICENSE:

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to HCL, for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. HCL, therefore, cannot guarantee or imply reliability, serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided "AS IS," without warranty of any kind. HCL shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

Each copy or any portion of these sample programs or any derivative work must include a copyright notice as follows:

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from HCL Ltd. Sample Programs.

## Trademarks

HCL Technologies Ltd. and HCL Technologies Ltd. logo, and hcl.com are trademarks or registered trademarks of HCL Technologies Ltd., registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Other product and service names might be trademarks of HCL or other companies.

## Terms and conditions for product documentation

Permissions for the use of these publications are granted subject to the following terms and conditions.

### Applicability

These terms and conditions are in addition to any terms of use for the HCL website.

### Personal use

You may reproduce these publications for your personal, noncommercial use provided that all proprietary notices are preserved. You may not distribute, display or make derivative work of these publications, or any portion thereof, without the express consent of HCL.

### Commercial use

You may reproduce, distribute and display these publications solely within your enterprise provided that all proprietary notices are preserved. You may not make derivative works of these publications, or reproduce, distribute or display these publications or any portion thereof outside your enterprise, without the express consent of HCL.

### Rights

Except as expressly granted in this permission, no other permissions, licenses or rights are granted, either express or implied, to the publications or any information, data, software or other intellectual property contained therein.

HCL reserves the right to withdraw the permissions granted herein whenever, in its discretion, the use of the publications is detrimental to its interest or, as determined by HCL, the above instructions are not being properly followed.

You may not download, export or re-export this information except in full compliance with all applicable laws and regulations, including all United States export laws and regulations.

HCL MAKES NO GUARANTEE ABOUT THE CONTENT OF THESE PUBLICATIONS. THE PUBLICATIONS ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, NON-INFRINGEMENT, AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.